

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月10日

上場取引所 JQ

上場会社名 カラカミ観光株式会社

コード番号 9794 URL <http://www.karakami-kankou.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 片山 達哉

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 西村 孝孔

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

TEL 011-598-3225

配当支払開始予定日 —

(百万円未満四捨五入)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	9,912	△15.6	411	△19.8	201	0.3	43	—
21年3月期第2四半期	11,746	—	513	—	200	—	△882	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	4.91	—
21年3月期第2四半期	△101.81	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	42,771	7,850	17.7	875.29
21年3月期	43,349	7,778	17.3	866.72

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 7,578百万円 21年3月期 7,504百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,600	△15.4	860	68.6	360	—	100	—	11.53

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	8,670,080株	21年3月期	8,670,080株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	11,988株	21年3月期	11,788株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	8,658,249株	21年3月期第2四半期	8,659,202株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間における我が国経済は、在庫調整の進展や、昨年来からの景気対策による需要の下支えにより持ち直しの動きがあるものの、新政権による補正予算見直しの動き如何によっては、一時的な景気低迷の可能性が懸念されるところです。

当社グループの主要営業基盤である道内経済は、設備投資や住宅着工の大幅減などから、景気は引き続き低迷していますが、個人消費の一部などには持ち直しの動きがみられます。しかしながら、世界的な景気回復が依然低調なことから、雇用や所得環境の悪化などを背景とした停滞が続くと予想され、更なる経済対策による下支えが期待されるところです。

このような環境の中、観光業界におきましては、初めてとなる秋の大型連休による底上げ効果により、主要輸送機関の利用者数がゴールデンウィーク後半を上回ったものの、景気の低迷に加え、新型インフルエンザの影響により、引き続き厳しい状況にあります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の業績は、宿泊客数実績では484千人（前年同四半期比8.0%減）となり、営業収益は5,804百万円（同12.4%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

（資産、負債及び純資産の状況）

(1) 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は42,772百万円となり、前連結会計年度末比577百万円の減少となりました。

その主な要因は売掛金が前連結会計年度末比295百万円の増加と、減価償却により有形固定資産が前連結会計年度末比776百万円の減少であります。また、投資有価証券については時価評価等により前連結会計年度末比50百万円の増加となりました。

(2) 負債

長期借入金の返済等により前連結会計年度末比649百万円の減少となりました。

(3) 純資産

純資産は利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末比72百万円増加となり、自己資本比率は17.7%と前連結会計年度末より0.4ポイント増加しました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は3,293百万円となり、前連結会計年度末と比較して151百万円の減少となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は1,026百万円の収入（前年同四半期連結会計期間は1,537百万円の収入）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益が632百万円となったこと及び仕入債務の増加が225百万円であります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は63百万円の支出（前年同四半期連結会計期間は102百万円の支出）となりました。

主な要因は、定期預金への預け入れによる支出15百万円、有形・無形の固定資産取得の支出50百万円によるものであります。収入においては投資有価証券の売却が2百万円であります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は1,210百万円の支出（前年同四半期連結会計期間は138百万円の収入）となりました。

主な要因は、長期の借入により400百万円を調達し、短期及び長期借入金の返済また社債の償還において1,609百万円の支出をしております。

なお、平成22年3月期第1四半期に係る連結経営成績に関する定性的情報については、平成22年3月期第1四半期決算短信（平成21年8月12日開示）をご参照ください。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、観光業界を取り巻く環境が引き続き厳しいことから、平成21年5月20日付（平成21年3月期決算短信）にて公表いたしました業績予想の売上高を20,000百万円から18,600百万円に修正いたしました。

一方、費用につきましては、経常的なコスト削減等に取り組みました結果、売上減少の金額をカバー出来るところまでのコスト削減対策の達成が可能と見込まれますので、営業利益、経常利益につきましては以下のとおり上方修正致します。なお、詳細は別途開示する業績予想の修正に関するお知らせに記載しております。

（通期）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	20,000	600	200	100	11 53
今回修正予想（B）	18,600	860	360	100	11 53
増減額（B－A）	△1,400	260	160	0	－
増減率（％）	△7.0	43.3	80.0	0.0	－
前期実績	21,978	510	△276	△4,741	△547 56

4. その他

- （1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

- （2）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

- （3）四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

- （4）継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、多額の当期純損失を計上したことに伴う純資産の大幅な減少により、当社グループが借入しているシンジケートローンの財務制限条項の一部に抵触しました。当第2四半期連結会計期間においては、シンジケートローンの変更契約により、あるいは期限の利益の継続同意により、財務制限条項の抵触の状態は解消されましたが、新たな財務制限条項を付されております。この新たな財務制限条項に抵触しないためには収益力の回復が不可欠ですが、いまだ収益力の回復途上にあるため、再び財務制限条項に抵触する可能性があります。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,418,243	3,539,726
売掛金	962,989	668,093
商品	86,468	88,039
原材料及び貯蔵品	106,742	110,966
繰延税金資産	51,696	82,895
未収法人税等	—	47,868
その他	293,631	189,938
貸倒引当金	△4,538	△2,392
流動資産合計	4,915,232	4,725,136
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	72,293,394	72,277,088
減価償却累計額及び減損損失累計額	△47,833,622	△47,060,697
建物及び構築物(純額)	24,459,772	25,216,390
機械装置及び運搬具	685,320	684,809
減価償却累計額及び減損損失累計額	△640,165	△637,724
機械装置及び運搬具(純額)	45,155	47,084
土地	10,373,678	10,367,674
その他	4,272,434	4,234,539
減価償却累計額及び減損損失累計額	△3,796,155	△3,735,025
その他(純額)	476,278	499,513
有形固定資産合計	35,354,885	36,130,664
無形固定資産		
のれん	592,992	611,718
その他	245,555	232,545
無形固定資産合計	838,547	844,264
投資その他の資産		
投資有価証券	1,440,514	1,390,569
繰延税金資産	23,061	21,586
破産更生債権等	19,858	19,858
その他	150,230	184,239
貸倒引当金	△31,358	△33,119
投資その他の資産合計	1,602,305	1,583,133
固定資産合計	37,795,739	38,558,061
繰延資産		
社債発行費	60,581	65,379
繰延資産合計	60,581	65,379
資産合計	42,771,553	43,348,578

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間末
(平成21年9月30日)

前連結会計年度末に係る
要約連結貸借対照表
(平成21年3月31日)

負債の部		
流動負債		
買掛金	902,302	820,140
短期借入金	3,050,000	2,950,000
1年内償還予定の社債	451,000	1,821,000
1年内返済予定の長期借入金	3,189,800	6,135,450
未払金	1,315,354	1,605,848
未払法人税等	53,588	40,268
未払消費税等	84,932	64,334
繰延税金負債	867	651
役員賞与引当金	12,180	21,000
その他	372,101	344,800
流動負債合計	9,432,126	13,803,492
固定負債		
社債	4,138,000	3,393,500
長期借入金	20,082,898	17,119,098
繰延税金負債	399,835	380,069
退職給付引当金	481,190	464,716
負ののれん	52,636	55,406
長期預り保証金	332,362	353,812
その他	2,753	270
固定負債合計	25,489,676	21,766,873
負債合計	34,921,803	35,570,365
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,454,940	2,454,940
資本剰余金	2,182,984	2,182,984
利益剰余金	2,879,510	2,836,996
自己株式	△11,335	△11,241
株主資本合計	7,506,098	7,463,679
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	72,205	40,713
評価・換算差額等合計	72,205	40,713
少数株主持分	271,445	273,818
純資産合計	7,849,750	7,778,212
負債純資産合計	42,771,553	43,348,578

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業収益	11,746,482	9,911,981
営業費用	11,233,787	9,500,964
営業利益	512,695	411,017
営業外収益		
受取利息	3,858	868
受取配当金	26,861	21,787
受取地代家賃	48,357	40,009
負ののれん償却額	2,770	2,770
その他	38,377	39,363
営業外収益合計	120,225	104,798
営業外費用		
支払利息	349,675	292,694
社債発行費	52,686	—
社債発行費償却	5,180	4,798
その他	24,925	17,301
営業外費用合計	432,468	314,794
経常利益	200,452	201,021
特別利益		
投資有価証券売却益	35,965	2,865
その他	1,375	520
特別利益合計	37,340	3,385
特別損失		
固定資産除却損	13,936	4,860
減損損失	1,178,413	—
投資有価証券売却損	1,877	—
たな卸資産評価損	25,006	—
借入金繰上返済損失	—	68,742
その他	2,525	13,206
特別損失合計	1,221,759	86,808
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△983,966	117,598
法人税、住民税及び事業税	140,902	39,403
過年度法人税等	23,247	—
法人税等調整額	△262,953	28,303
法人税等合計	△98,803	67,707
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△3,596	7,377
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△881,566	42,513

(第2四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
営業収益	6,625,665	5,804,064
営業費用	5,910,462	5,041,817
営業利益	715,202	762,247
営業外収益		
受取利息	3,661	789
受取配当金	5,853	170
受取地代家賃	23,242	17,953
負ののれん償却額	1,385	1,385
その他	18,190	14,683
営業外収益合計	52,332	34,981
営業外費用		
支払利息	175,352	138,580
社債発行費	52,686	—
社債発行費償却	2,590	2,399
その他	15,124	8,905
営業外費用合計	245,754	149,885
経常利益	521,781	647,343
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,192
その他	249	520
特別利益合計	249	1,712
特別損失		
固定資産除却損	9,846	4,700
減損損失	1,178,413	—
投資有価証券売却損	412	—
その他	—	12,226
特別損失合計	1,188,673	16,926
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△666,643	632,129
法人税、住民税及び事業税	113,620	18,243
過年度法人税等	7,795	—
法人税等調整額	△142,351	9,046
法人税等合計	△20,936	27,290
少数株主利益	735	8,124
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△646,442	596,714

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△983,966	117,598
減価償却費	960,633	858,960
減損損失	1,178,413	—
のれん償却額	15,955	15,955
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△10,550	385
退職給付引当金の増減額(△は減少)	914	16,473
賞与引当金の増減額(△は減少)	△39,619	△21,599
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△21,500	△8,820
受取利息及び受取配当金	△30,719	△22,655
支払利息	349,675	292,694
社債発行費償却	5,180	4,798
社債発行費	52,686	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△34,087	△2,865
投資有価証券評価損益(△は益)	0	—
有形固定資産除却損	13,936	4,860
売上債権の増減額(△は増加)	△181,065	△294,896
たな卸資産の増減額(△は増加)	28,829	5,795
仕入債務の増減額(△は減少)	△17,896	82,162
未払消費税等の増減額(△は減少)	△52,571	20,597
その他の資産・負債の増減額	△186,207	△315,262
小計	1,048,041	754,182
利息及び配当金の受取額	30,785	22,555
利息の支払額	△353,266	△297,505
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△43,832	21,784
営業活動によるキャッシュ・フロー	681,728	501,017
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△15,000	△30,000
定期預金の払戻による収入	100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△143,784	△66,698
投資有価証券の売却による収入	77,903	5,871
貸付金の回収による収入	3,121	228
無形固定資産の取得による支出	△29,956	△43,651
有形固定資産の除却による支出	△3,288	△766
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,005	△135,017

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,000,000	200,000
短期借入金の返済による支出	△2,000,000	△100,000
長期借入れによる収入	1,700,000	4,800,000
長期借入金の返済による支出	△1,999,598	△4,781,850
社債の発行による収入	1,947,313	—
社債の償還による支出	△252,500	△625,500
自己株式の取得による支出	△266	△94
配当金の支払額	△216,484	—
少数株主への配当金の支払額	△9,750	△9,750
その他	—	△288
財務活動によるキャッシュ・フロー	168,715	△517,483
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	839,438	△151,482
現金及び現金同等物の期首残高	4,516,251	3,444,726
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,355,690	3,293,243

(4) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度において、多額の当期純損失を計上したことに伴う純資産の大幅な減少により、当社グループが借入しているシンジケートローンの財務制限条項の一部に抵触しました。当第2四半期連結会計期間においては、シンジケートローンの変更契約により、あるいは期限の利益の継続同意により、財務制限条項の抵触の状態は解消されましたが、新たな財務制限条項を付されております。この新たな財務制限条項に抵触しないためには収益力の回復が不可欠ですが、いまだ収益力の回復途上にあるため、再び財務制限条項に抵触する可能性があります。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を改善すべく、「収益力の強化」として、広告宣伝費、燃料費等の削減を行うとともに、仕入部を新設し、料飲材料費を中心としたコスト削減を徹底しました。また、営業面につきましても、平成21年4月に東京営業所、大阪営業所を新設する等、集客を強化しました。さらに、これらの対応策を中期的に展開するために、平成21年11月10日開催の取締役会において「経営改善計画～New Karakami Project～」を決議しました。今後、安定した収益力を確保するために、当経営改善計画を推進してまいります。

しかし、当連結会計年度末において財務制限条項に再び抵触するか否かは、当連結会計年度の業績如何であります。今後も事業環境の更なる厳しさが予想される状況にあり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

	観光ホテル 事業 (千円)	ビジネスホ テル事業 (千円)	スポーツ施 設運営事業 (千円)	レストラン 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	9,625,613	1,964,384	105,255	51,229	11,746,482	—	11,746,482
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	64	322	10,165	—	10,552	(10,552)	—
計	9,625,677	1,964,707	115,421	51,229	11,757,035	(10,552)	11,746,482
営業利益又は営業損失(△)	143,738	343,002	△3,565	8,402	491,577	21,118	512,695

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

	観光ホテル 事業 (千円)	ビジネスホ テル事業 (千円)	スポーツ施 設運営事業 (千円)	レストラン 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	8,009,965	1,756,339	96,068	49,607	9,911,981	—	9,911,981
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	22	50	10,086	—	10,159	(10,159)	—
計	8,009,988	1,756,390	106,154	49,607	9,922,141	(10,159)	9,911,981
営業利益又は営業損失(△)	172,362	222,661	△5,639	5,611	394,996	16,020	411,017

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、内部管理（関係会社管理）上採用している区分によっております。

2. 各事業区分の運営会社

事業区分	運営会社
観光ホテル事業	当社、(株)東北カラカミ観光、(株)洞爺サンパレス、(株)古賀乃井、(株)ニュー阿寒ホテル、(株)洞爺パークホテル、(株)川久、(株)ホテルエメラルド、(株)阿寒ビューホテル
ビジネスホテル事業	当社、(株)マックスパート、(株)川久
スポーツ施設運営事業	サンシャインビル(株)
レストラン事業	(株)羊ヶ丘展望園

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成21年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. 生産、受注及び販売の状況

当社グループは主としてホテル事業を営んでいるため、生産、受注及び販売の状況については、事業の種類別セグメントごとに、部門別の販売実績及び宿泊客数実績を記載しております。

① 販売実績

当第2四半期連結累計期間の営業収益を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	
		金額 (千円)	前年同期比 (%)
観光ホテル 事業	定山溪ビューホテル	1,836,115	△17.3
	洞爺サンパレス	1,199,664	△23.7
	ホテル瑞鳳	838,796	4.8
	ニュー阿寒ホテル	643,434	△17.2
	洞爺パークホテル天翔	620,311	△27.3
	秋保グランドホテル	603,081	△5.0
	コガノイベイホテル	594,218	△12.9
	ホテル古賀の井	488,818	△9.0
	ホテル川久	459,209	△19.2
	ホテルエメラルド	366,331	△11.7
	白浜シーサイドホテル	359,242	△7.1
	本社	742	△8.5
	小計	8,009,965	△16.8
ビジネスホテル 事業	晴海グランドホテル	762,359	△13.4
	ホテルコスモスクエア国際交流 センター	721,826	△9.1
	川崎グランドホテル	272,153	△6.4
	小計	1,756,339	△10.6
スポーツ施設運 営事業	サンシャインスポーツクラブ	96,068	△8.7
	小計	96,068	△8.7
レストラン 事業	羊ヶ丘展望園	49,607	△3.2
	小計	49,607	△3.2
合計		9,911,981	△15.6

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 宿泊客数実績

当第2四半期連結累計期間の宿泊客数実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	
		人数(人)	前年同期比(%)
観光ホテル 事業	定山溪ビューホテル	182,374	△11.7
	洞爺サンパレス	112,776	△19.4
	ホテル瑞鳳	53,703	12.2
	ニュー阿寒ホテル	67,059	△12.9
	洞爺パークホテル天翔	62,212	△25.9
	秋保グランドホテル	48,810	△3.6
	コガノイベイホテル	30,968	△10.9
	ホテル古賀の井	31,608	△6.7
	ホテル川久	14,944	△17.7
	ホテルエメラルド	45,386	1.3
	白浜シーサイドホテル	32,867	△9.1
	小計	682,707	△14.6
ビジネスホテル 事業	晴海グランドホテル	55,414	△1.1
	ホテルコスモスクエア国際交流 センター	61,692	△5.5
	川崎グランドホテル	16,837	△1.0
	小計	133,943	△3.2
合計		816,650	△12.9